

グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)

2020年のパフォーマンスの
振り返りと今後の見通し



ゲノム関連銘柄を主要投資対象とする当ファンドは、2020年2月下旬以降、コロナショックの影響を受け大きく下落したものの、主要国・地域で前例にない規模の経済支援政策が打ち出されたことなどから上昇に転じました。それ以降も、経済活動の再開や新型コロナウイルス（以下、新型コロナウイルス）向けワクチンの開発進展などを受け、2020年末にかけて大幅に上昇しました。

本資料では、2020年における当ファンドのパフォーマンスや今後の見通しなどについて、当ファンドのマザーファンドの運用に助言を行なうアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー（アーク社）の見解をもとに、ご紹介します。

本資料の
内容

- 2020年の投資環境と当ファンドのパフォーマンス
- 2020年の銘柄別パフォーマンス寄与度
- CRISPR/Cas9技術の開発者がノーベル化学賞を受賞
- 組入上位・寄与度上位銘柄のご紹介
- ゲノム革命の今後の見通し
- アーク社からのメッセージ

当ファンドの運用状況

< 基準価額の推移 >

(2019年1月16日(設定日)～2021年1月22日)



基準価額
24,962円
純資産総額
1,184億円
2021年1月22日現在

※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

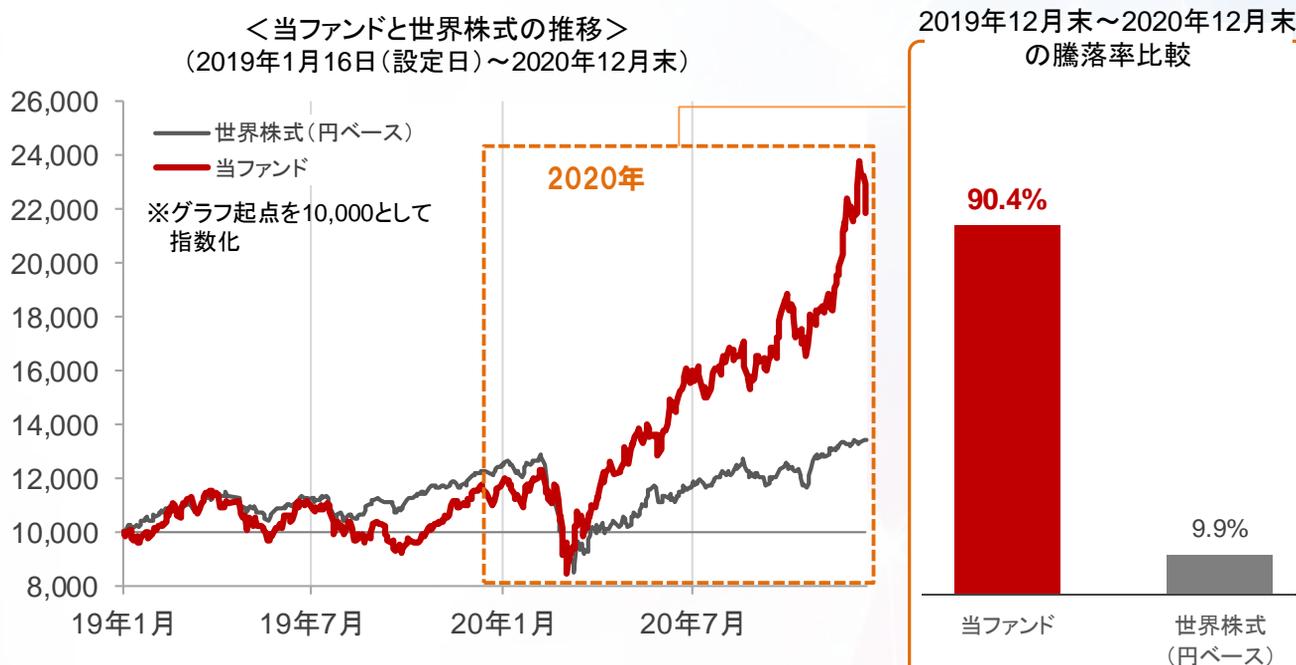
2020年の投資環境と当ファンドのパフォーマンス

2月20日以降、新型コロナウイルスの感染拡大や、主要産油国による追加減産に関する協議の決裂を受けた原油価格の急落などが嫌気され、3月中旬にかけて、世界的に株式市場は大きく下落しました。

しかし、3月中旬以降は、主要国・地域で大型の財政・金融政策が発表されたことや経済活動再開の動きが広がったこと、新型コロナウイルス向けワクチンの開発進展などを受け、世界の株式市場は上昇に転じました。9月以降は、感染の再拡大への警戒感などから下落する場面もあったものの、年末にかけて新型コロナウイルス向けワクチンの接種開始などを背景に、世界株式は上昇しました。

このような中、当ファンドの投資対象であるゲノム関連企業の株式は、市場全体の大きな流れに押され、3月中旬にかけて下落しました。しかし、それ以降は、複数のバイオ製薬企業などによる新型コロナウイルスの感染症治療薬および、ゲノム関連技術を活用した新型コロナウイルス向けワクチンの開発進展・実用化に関する報道に加え、新型コロナウイルスのゲノム解析需要の高まりやゲノム編集技術「CRISPR/Cas9（クリスパー/キャスナイン）」開発者のノーベル化学賞受賞などが好感され、大きく上昇しました。

こうした結果、**当ファンドの2020年のパフォーマンスは+90.4%（2019年12月末比）と、大きく上昇しました。**



※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

※世界株式:MSCI ACワールド指数(トータルリターン、米ドルベース)の値を、当ファンドの算出方法に準じるため、前営業日の指数値に当該営業日の為替レートを乗じて、日興アセットマネジメントが円換算しています。

※上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断したデータをもとに、日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

2020年の銘柄別パフォーマンス寄与度

当ファンドの2020年のパフォーマンスに寄与した主な銘柄は、以下の通りです。

＜銘柄別パフォーマンス寄与度と主な銘柄の概要＞

寄与度上位5銘柄

(2019年12月末～2020年12月末)

銘柄名	国・地域	寄与度
インビテ	米国	8.90%
テラドック・ヘルス	米国	8.36%
ツイスト・バイオサイエンス	米国	7.70%
CRISPRセラピューティクス	スイス	6.41%
セレス・セラピューティクス	米国	5.81%



血液などを調べることで患者の病気を特定する分子診断や遺伝子検査サービスを提供する中心的企業の一角

画期的な液体生検*などの知的財産権を有するArcherDxの買収に対する市場の高い評価などから、株価が大きく上昇

* 身体への負担が少ない液性検体(血漿や尿など)を利用して、主にがんなどの診断を行なう技術



オンラインで、診断や療法助言、投薬の処方などの遠隔医療サービスを提供する大手医療サービス会社

新型コロナウイルス感染拡大を受けた遠隔医療サービスの需要拡大が追い風となったほか、病院など向けの遠隔医療システムを提供するソフトウェア大手、インタッチ・ヘルスの買収が好感され、上昇

寄与度下位5銘柄

(2019年12月末～2020年12月末)

銘柄名	国・地域	寄与度
ルビウス・セラピューティクス	米国	▲2.36%
プレシゲン	米国	▲1.58%
ジェンスクリプト・バイオテック	中国	▲1.20%
ブルーバード・バイオ	米国	▲0.82%
ベリー・ゲノミクス	中国	▲0.78%



画期的なゲノム編集技術であるCRISPR/Cas9の基礎的ライセンスを保有する3社のうちの1社

主力開発品における良好な治験データの発表などが好感され、上昇



中国の臨床応用における遺伝子検査技術のリーディングカンパニーで、病院や研究機関などに、遺伝子配列検査サービスを提供

新型コロナウイルス感染拡大に伴う患者の治療の遅れなどにより、がん検査サービスの需要が低迷していることを受け、株価が下落

※写真はイメージです

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。

※寄与度は、各銘柄の日次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト(売買手数料や信託報酬など)などは考慮されていません。また、外貨建ての銘柄については、円換算済みの概算値となっています。そのため、実際の基準価額の騰落に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

トピック

CRISPR/Cas9技術の開発者がノーベル化学賞を受賞

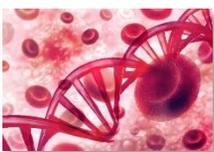
スウェーデン王立科学アカデミーは2020年10月7日、2020年のノーベル化学賞を、遺伝子を効率的に改変するゲノム編集技術「CRISPR/Cas9」の主要な開発者とされるジェニファー・ダウドナ氏とエマニュエル・シャルパンティエ氏に授与することを発表しました。こうしたことなどを受け、**CRISPR/Cas9の基礎的ライセンスを保有する3社である「CRISPRセラピューティクス」、「インテリア・セラピューティクス」、「エディタス・メディシン」の株価は、年末にかけて大幅に上昇しました。**

ゲノム編集技術は以前より存在していましたが、これまでの技術は、遺伝子の改変に伴う作業の煩雑さやコストなどの面で課題がありました。CRISPR/Cas9は、従来の技術と比べて、大幅に短期間で安く編集できることや技術的ハードルの低さなどから急速に普及し、今日では**生命科学分野において必要不可欠な技術**とも言われています。

CRISPR/Cas9はすでに多方面で活用されています。例えば医療分野では、遺伝子の変異により発生する遺伝性の疾患の治療などに、同技術が応用されています。また食糧分野でも、血圧の降下などに効果があるとされる成分「GABA（ギャバ）」を豊富に含むトマトや肉厚で可食部の多い真鯛などの開発が行なわれているほか、植物の遺伝子改変による地球温暖化ガス削減などの研究も進められています。このようにゲノム編集技術は、安全性や倫理上などの課題があるものの、**長期的には多方面に大きな影響を与えうる技術として期待**されています。

<CRISPR/Cas9の基礎的ライセンスを保有する3社>

CRISPRセラピューティクス(スイス)



CRISPR/Cas9発明者の一人エマニュエル・シャルパンティエ博士らが設立。
鎌状赤血球症とβサラセミアなど血液疾患の治療法の研究・開発に注力。

インテリア・セラピューティクス(米国)



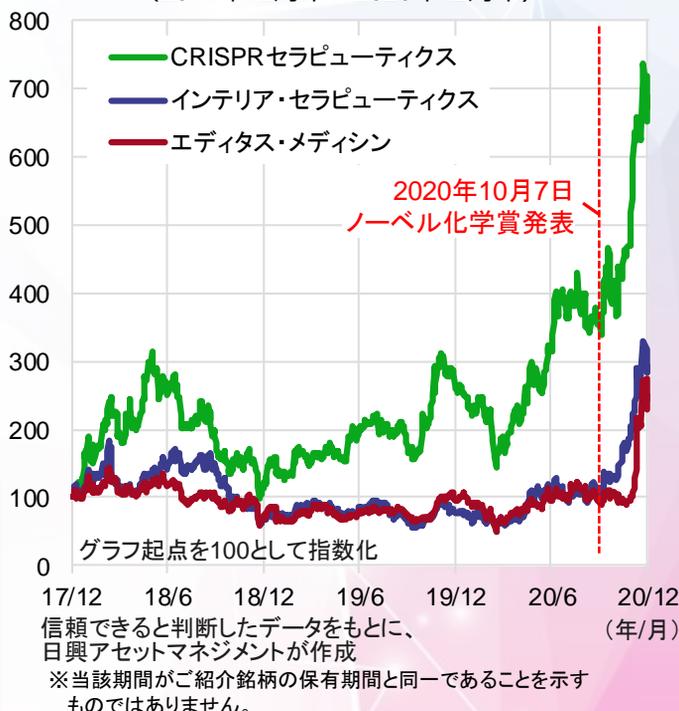
CRISPR/Cas9発明者の一人ジェニファー・ダウドナ博士らが設立。
遺伝性疾患に対する遺伝子治療薬の研究および臨床開発を行なっている。

エディタス・メディシン(米国)



CRISPR/Cas9発明者の一人フェン・チャン博士らが設立。
遺伝性の眼の疾患や血液疾患、がんなど、様々な病気の治療法・治療薬を研究・開発。

<左記3銘柄の株価推移>
(2017年12月末~2020年12月末)



上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

組入上位銘柄のご紹介①

2020年12月末時点の組入上位銘柄



※写真はイメージです

ケアディーエックス



米国

臓器移植関連ソリューションのリーディングカンパニー

企業概要

- ✓ 心臓など臓器の移植希望者のマッチングや移植後のモニタリングなど、臓器移植に関連するツール・サービスの提供に注力しています。
- ✓ 家庭でできる血液を使った分子診断サービスや機械学習を使ったモニタリング、医薬品の投与など、長期に亘り患者をサポートしています。



※当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

注目ニュース

- ✓ 同社は2020年9月下旬、臓器移植患者向けの健康管理モバイルアプリ「AlloCare」リリースに関する発表などが評価され、株価は大きく上昇しました。
- ✓ 10月には、良好な第3四半期の決算内容（速報値）が発表されました。検査関連の収入がけん引役となり、同社の売上が前年比で50%超増加したことや、これに伴ない、一部アナリストが目標株価を引き上げたことなどが好感されました。



ARKの視点

- ✓ 同社製品の「AlloSure Heart」を メディケア（高齢者・障がい者向け公的医療保険制度）の保険適用範囲に加えるという最終決定が発表されました。同製品は、臓器の拒絶反応を監視する非侵襲性*の血液検査ツールです。この決定は、今後の同社の成長に貢献すると期待されます。

* 身体に負担を与えない検査や治療のこと

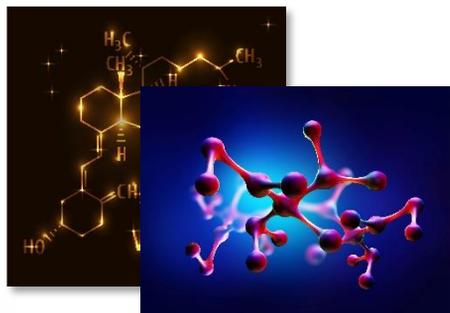
※当ページは、2020年12月末時点の組入上位銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

組入上位銘柄のご紹介②

2020年12月末時点の組入上位銘柄



ツイスト・
バイオサイエンス



米国

合成生物学分野のリーダー企業

※写真はイメージです

企業概要

- ✓ 合成生物学*を駆使し、高品質の人工遺伝子やシーケンサー（解析装置）用の試薬などの製造を手掛けています。

*細胞や遺伝子など生物の構成要素を組み合わせて生命機能を人工的に設計したり、人工の生物システムを構築したりする学問分野

注目ニュース

- ✓ 2020年6月末以降、武田薬品工業や動物向けバイオ医薬品企業InvetxなどとのR&D（研究・開発）における提携や、新型ウイルスなどの呼吸器疾患向けの研究ツールを製品ラインナップに追加したことなどが、相次いで発表されました。
- ✓ また11月以降には、同社の2020年通期決算がアナリスト予想を上回る良好な内容だったことや、新工場の建設とそれによる製造・販売能力の拡充などの積極的な成長計画が評価され、年末にかけて株価は大きく上昇しました。



※当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。



ARK
の視点

- 同社の製品は、合成生物学や次世代シーケンサー用サンプルの前処理、DNA ストレージ*など複数の領域でリーダーシップを発揮しており、**同業他社と比較して、高い競争優位性を有している**と考えています。

*ハードディスクなどの代わりにDNA（デオキシリボ核酸）をストレージ（外部記憶装置）として使用する試み

※当ページは、2020年12月末時点の組入上位銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

組入上位銘柄のご紹介③

2020年12月末時点の組入上位銘柄



※写真はイメージです

エディタス・メディシン



米国

ゲノム編集技術「CRISPR/Cas9」の 基礎的特許ライセンスを持つ3社の一角

企業概要

- ✓ 同社は、画期的なゲノム編集技術 CRISPR/Cas9の基礎的特許ライセンスを持つ3社のうちの1社です。
- ✓ 遺伝性の眼の疾患や血液疾患、がんなど、様々な病気の治療法・治療薬を研究・開発しています。



※当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

注目ニュース

- ✓ 2020年12月初旬に、鎌状赤血球症およびβサラセミア向け治療薬の前臨床試験における良好なデータと、大規模な製造・開発プロセスについて発表しました。
- ✓ こうした発表が好感され、年末にかけて、同社の株価は大幅に上昇しました。



ARK の視点

- CRISPR/Cas9だけでなく、Cas12aなど複数種類のCRISPR関連の権利を保有しており、**より幅広いゲノム領域を編集対象とすることが可能**となっています。
- また、バイオ医薬品大手プリストル・マイヤーズなど複数の医薬品企業と神経疾患や腫瘍向け治療薬の開発を進めており、今後の開発・臨床試験の動向が注目されます。

※当ページは、2020年12月末時点の組入上位銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ご参考: 寄与度上位銘柄のご紹介

下記銘柄は、当ファンドの2020年のパフォーマンスへの寄与度上位銘柄より、ご紹介しています。



※写真はイメージです

セレス・セラピューティクス

マイクロバイーム治療薬開発の パイオニア



米国

企業概要

- ✓ マイクロバイーム*を増強する医薬品治療法・医薬品の開発に従事しています。

*人間の身体に共生する微生物（細菌、ウイルスなど）の集合体

注目ニュース

- ✓ 消化器疾患の一種で場合によっては死に至る危険性もある「再発性クロストリジウム・ディフィシル感染症」向け治療薬の第3相臨床試験において、良好な結果が発表されました。

- ✓ この臨床試験結果が発表された2020年8月10日、同社の株価は前日比300%以上の大幅上昇となりました。



※当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

ARK の視点

- マイクロバイームの増強を目的とする治療薬の開発における革新的な企業です。
- 同社の研究は、完治が難しいとされている慢性的な胃腸病の治療方法の開発につながる可能性があり、これまで根治が難しかった消化器疾患の治療に変化をもたらすと期待されます。

※当ページは、2019年12月末から2020年12月末までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ARKの視点

ゲノム革命の今後の見通し



Simon Barnett

分子病理学や次世代DNA解析等を研究。
ARK入社前はコンピューター映像と機械
学習を用いた慢性創傷の治療に携わった。



当ファンドを支える
ゲノム担当アナリスト



Alexandra Urman

ゲノム編集や新しい免疫療法の技術等の
調査に注力。ARK入社前は、複数の医療
施設で臨床がん研究に携わった。
AIや宇宙医学についても造詣が深い。

コロナ禍において存在感が高まるゲノム関連技術

2020年のコロナ禍において、ゲノム関連技術は、重要な役割を果たしました。例えば、中国の科学者たちは、次世代ゲノムシーケンサー（解析装置）を利用し、新型ウイルスが初めて発見されてからわずか数日後に、新型ウイルスのゲノム配列の解析に成功しました。今では、この新型ウイルスのゲノム配列は、合成生物学など他の分野の研究に活かされています。また、現在接種が開始されている新型ウイルス向けワクチンの一部は、ゲノム関連技術の一種であるmRNA（メッセンジャー・アールエヌエー）技術が使われています。

新型ウイルス感染拡大が遠隔医療・検査サービスの普及を後押し

今後、新型ウイルスの感染拡大がさらに続くようであれば、資金や臨床試験に参加する患者の不足などにより、臨床試験の実施が困難になり、研究・開発の進捗に遅れが生じる可能性があります。こうした状況は、臨床試験を実施している医薬品企業などにとって、逆風になると考えられます。

一方、一部の国・地域で感染拡大抑制のための行動制限措置が続く中、テラドック・ヘルスなど、オンライン上での診断や投薬の処方などの「遠隔医療サービス」や、インビテやケアディーエックスなど、患者の自宅で採取可能な液体検体（血液や尿など）で検査を行なう「分子診断サービス」を提供する企業などにとっては、人々の行動スタイルの変化が成長を後押しする要因になると考えられます。

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

上記は、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」のマザーファンドに助言を行なっているアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(アーク社)のコメントをもとに日興アセットマネジメントが作成したものであり、当情報は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

アーク社からのメッセージ

～ 投資家の皆さまへ ～

新型コロナウイルス感染拡大などにより、不安定な市場環境が続いています。このような中でも、私たちの調査・運用手法に信頼をお寄せいただき、投資を継続していただいたことに感謝いたします。

私達は、新型コロナウイルスをきっかけに、ゲノム技術の進化について、再認識することとなりました。2003年のSARS(重症急性呼吸器症候群)流行時にはウイルスのゲノム解析に5ヵ月を要しましたが、**解析技術の向上により、今回はわずか数日で解析することに成功しました。**

このほか、ゲノム関連技術のコストの低下が、患者ごとに異なる病気の原因や病態を特定し、病気を根治する「個別化医療」の時代を拓くと期待されるなど、**ゲノム関連技術は、日常的な医療の一部になると**考えています。また、ヘルスケア分野以外においても、ゲノム関連技術を使った効率的な品種改良によって、農業など食糧分野の市場規模拡大が期待されるほか、世界的な人口爆発で食糧危機が懸念される中、食糧の生産を持続可能なものにする大きな可能性を秘めています。

当ファンドへの投資は、**ゲノム解析、ゲノム編集、AI(人工知能)の3つの技術が融合し、世界経済の幅広い分野に影響を与える可能性を秘めた壮大なテーマへの投資**だと考えています。

ARKは破壊的イノベーションへの投資において、足元の状況ではなく数年先の姿を見ています。投資家の皆さまには、短期的な値動きに一喜一憂せず、**少し先を見据えた中長期の投資対象**として、引き続き当ファンドをご愛顧いただければ幸いです。



Catherine D. Wood

ARK創業者、CIO/CEO

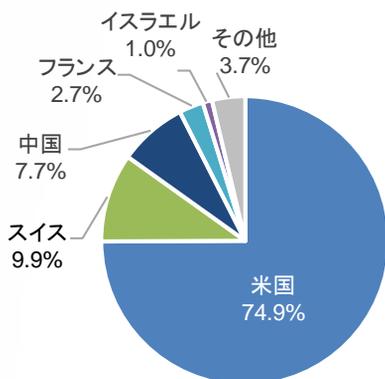
- 2014年1月にARKを設立する前は12年間大手運用会社にてグローバルテーマ株式運用のCIOとして50億ドル以上を運用。
- ダボス会議への出席や、2016“Women in Finance, Outstanding Contribution Awarded”、2018“Bloomberg’s Top 50”での選出など、今、業界で最も注目される女性のひとり。

上記は、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」のマザーファンドに助言を行なっているアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(アーク社)のコメントをもとに日興アセットマネジメントが作成したものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

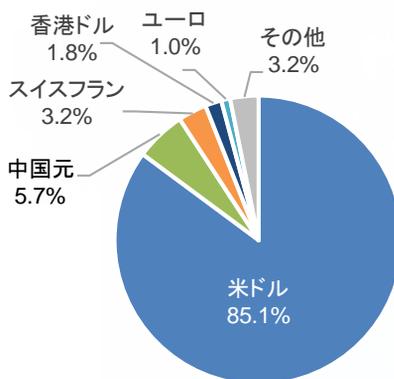
当資料は、投資者の皆様に「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(2020年12月末時点)

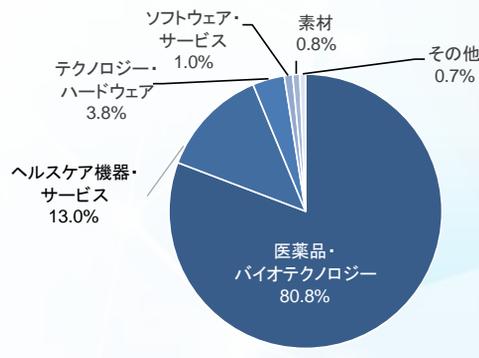
【国・地域別比率】



【通貨別比率】



【業種別比率】



※ 四捨五入などの関係で合計が100%とならない場合があります。

【組入上位10銘柄】

(銘柄数:60銘柄)

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	組入比率
1	CRISPRセラピューティクス	米ドル	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	6.7%
2	インビテ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	6.5%
3	インテリア・セラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.5%
4	ケアディーエックス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.4%
5	ツイスト・バイオサイエンス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.4%
6	エディタス・メディシン	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.0%
7	フェイト・セラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.9%
8	アイオバンス・バイオセラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.5%
9	パーソナリス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.2%
10	テラドック・ヘルス	米ドル	米国	ヘルスケア機器・サービス	3.2%

※ 業種名はGICS(世界産業分類基準)に基づきます。
 ※ 個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。
 ※ 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

※ 上記はマザーファンドの状況です。比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1 主に、世界の株式の中から、ゲノム関連ビジネスを行なう企業およびゲノム技術の恩恵を受ける企業の株式*に投資を行ないます。
* 預託証券を含みます。
- 2 個別銘柄の選定において、アーク社の調査力を活用します。
- 3 年1回、決算を行ないます。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申し込みの際しての留意事項

■リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様には帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様は「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様には帰属します。当ファンドをお申し込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡します。内容必ずご確認くださいの上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2028年12月7日まで(2019年1月16日設定)
決算日	毎年12月7日(休業日の場合は翌営業日)
購入・換金 申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日または ニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>3.3%(税抜3%)以内</u> ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し <u>年率1.804%(税抜1.64%)</u>
その他の 費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、 <u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u> が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※ 運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※ 投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アメリカズ・インク
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目録見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○		
岡三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○
おかやま信用金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第19号	○		
株式会社滋賀銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第11号	○		○
株式会社荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第6号	○		
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第114号	○		
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○		○
株式会社北都銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第10号	○		
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第20号	○		
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○	○	
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○		

(資料作成日現在、50音順)